【原著】 大学入試研究ジャーナル第 35 号, 1-6, 2025

# 地震が及ぼす大学入試への影響

## ――能登半島地震における富山大学の事例――

山田貴光（富山大学）

2024(令和 6)年 1 月 1 日，能登半島地震が発生した。被災地に最も近くに位置する国立大学の富山大学において，地震による直接的な被害は少なかったものの，一般選抜における志願者動向に大きな影響があった。富山大学の令和 6 年度一般選抜の志願者数は前年度から 1,248 人減少し，過去 19 年間で最少の志願者数を記録した。前期・後期ともに全国から志願者が減少，特に 3 大都市圏からの出願減少が目立った。ただし，富山大学を構成する 9 学部それぞれが異なる事情があり，地震によって一律に全学部の志願者が減少したわけではなかった。なお，被災地である能登半島に位置する高校から富山大学への志願者数・入学者数に，大きな変動は見られなかった。

キーワード：地震，能登半島地震，2024 年 1 月 1 日，入試，志願者

### 1 はじめに

2024(令和 6)年 1 月 1 日 16 時 10 分，能登半島北東部を震源地とするマグニチュード 7.6 の地震が起こった。元旦夕方に大きな揺れが 1 分程続き，大規模隆起，液状化，建物倒壊，津波・浸水，火災等を発生させ，その後も余震が続いた。震源地から直線距離で約 90 ㎞にある富山大学は，国立大学の中で最も震源地に近い。大学本部のある富山市内では，道路のひび割れや塀の倒壊，土地の液状化等が一部で見受けられたものの，人命に関わる被害はなかった。一方，能登半島地域における甚大な被害状況を，テレビ各局は正月の特別番組を取りやめ報道し続けた。1 月上旬の大学入学共通テスト間近のタイミングで，大地震の被害状況の映像が繰り返し流されることで，どのような影響が本学にあったのか。震源地に最も近い富山大学の志願者動向から巨大地震の影響を確認したい。

過去に巨大地震の発生時の大学の対応や入試への影響について，様々な報告や考察が行われている。1995(平成 7)年 1 月 17 日の阪神・淡路大震災の大学対応について『激震：そのとき大学人は：阪神・淡路大震災関西学院報告書』に関西学院大学の各部局対応が詳細に記されている。2011(平成 23)年 3 月 11 日の東日本大震災に関しては，倉元(2012)が東北大学における地震直後の状況や翌日の後期日程や入試対応を綿密に記録し，大学入試の危機管理に関して考察している。福島ら(2013,2014)は東日本大震災後の地区別や県別の志願者動向の変化を報告している。また，並川ら(2013)は 2004(平成 16)年の新潟県中越地震や 2008(平成 20)年の新潟県中越沖地震における新潟大学の志願者動向を考察している。

### 2 令和 6 年能登半島地震の発生と影響

#### 2.1 富山大学の状況と対応

富山大学では，2024(令和 6)年 1 月 3 日，学長による声明がリリース，学内被害状況も報告された。富山大学関係者の人的被害として死亡者無し，負傷者 5 名（いずれも軽症），物的被害として窓ガラスの破損，天井裏の漏水，亀裂があった。附属図書館では蔵書落下により一時休館，附属病院では被災地域への DMAT 派遣や被災患者の受入等を行った。入試に関しては，被災者の経済的負担軽減，受験者の進学機会の確保のため，被災した受験者の入学検定料の全額免除を決定し，大学 HP 上に案内を 1 月 16 日行った。

#### 2.2 全国の大学の対応

能登半島地震で被災した受験者に対する特例措置に関して，全国の大学がそれぞれ検討し情報を公表していった。受験産業大手の旺文社は教育情報センター HP 上に各大学の対応情報を一覧化し公表した。2024(令和 6)年 1 月 25 日付で私立大学の情報一覧を，2 月 13 日付で国公立大学の情報一覧を掲載し，被災者視点の迅速な対応をしていた。

#### 2.3 令和 6 年度大学入学共通テストの実施

大学入学共通テストは通常どおりの実施が予定され，実施に際し能登半島地震発生の影響を鑑みた変更はなかった。1 月 1 日の地震のあと余震が継続して発生していたため，富山大学では共通テスト実施にあたり大きな余震が発生した場合とそうでない場合を想定し，対応策を各試験場監督者に説明し実施に臨んだ。幸い試験時間内の余震はなく共通テストは無事に完了した。なお，2024(令和 6)年 1 月 27 日・28 日実施の追試験は，金沢大学にも試験会場が設置され実施された。

### 2.4 高校教員からの心配の声

地震発生直後から，輪島市・穴水町・七尾市等の能登半島の中心市街地の被害状況，臨海部の港湾の隆起や山間部の土砂崩れの様子が，全国に一斉に放送された。能登半島での被害状況を見て“能登半島に比較的近い富山大学も被災しているのではないか”と思った高校教員が一定数いたのではないかと推察される。被災状況を懸念する連絡が，関東と東海地方の高校の先生方からメールや電話で 10 件程度あった。富山大学に大きな被害がないこと，学生と教職員の無事をお伝えした。「富山大学に大きな被害が出ていない」旨は，大学 HP「令和 6 年能登半島地震に関する富山大学の対応」に最新情報を掲載し更新した。被災地から遠方で生活される方々で「北陸＝被災地」とイメージされた方が多く，大学の実情が伝わっていないことがわかった。そのため，すでに授業が始まり学生たちが普段の大学生活を送っている様子を写真に撮り，HP に 1 月 18 日付で学内の様子を情報掲載した。直接的被害は少ないにも関わらず多数の予約キャンセルが発生した富山県内の宿泊施設（例えば宇奈月温泉）同様，地震発生によって受験者に芽生えた心理的な不安が，地震被害のない本学の入試に影響しないか，懸念した。

## 3 出願への影響

### 3.1 富山大学の入学者選抜の概要

富山大学の 2024(令和 6)年度の入学定員は 1,770 名，入学者選抜の募集人員は一般選抜 1,434 名（81%），総合型 94 名（5%），学校推薦型 242 名（14%）である。総合型選抜は，出願期間が全て 2023(令和 5)年 9 月～11 月，同年中に試験実施，共通テストを課さない選抜は同年 12 月中に合格発表，共通テストを課す選抜では共通テスト結果を受け翌年 2 月の合格発表である。一方，学校推薦型選抜は出願期間が全て 2023(令和 5)年 11 月中，同年中に試験実施，共通テストを課さない選抜は同年 12 月中，課す選抜では翌年 2 月の合格発表である。そのため，2024(令和 6)年 1 月 1 日の能登半島地震の発生が出願に影響する可能性がある入試は，2024(令和 6)年大学入学共通テスト後に出願となる，一般選抜であった。

### 3.2 一般選抜の全学の志願者動向

一般選抜（前期・後期）の志願者数について，まとめたものが図 1 である。過去を遡り，3 大学合併による新・富山大学となってからの 2006(平成 18)年度から，2024(令和 6)年度までの一般選抜の志願者数を前期・後期でわかる形でグラフ化した。2024(令和 6)年度入試における一般選抜の志願者数は，前期 2,570 人，後期 2,722 人，合計 5,292 人であった。これは，過去 19 年間の富山大学の一般選抜の志願者総数で最も少なく，前期・後期とも最少であった。前年度の 2023(令和 5)年度と比べて，一般選抜全体で 1,248 人（前期 834 人，後期 414 人）の減少となった。

では，2024(令和 6)年度では，どの地域からの志願者が減少したのか。地方別 1)の志願者数を，今回の 2024(令和 6)年度入試と前年度 2023（令和 5）年度入試で比較したものが，表 1 である。前期では，全国全ての地方からの志願者数が前年度を下回った。後期では，東北地方と北海道からの志願者が微増したものの，他の地方からは減少した。一般選抜全体としては，北海道のみ増減無しだったが，他は全て前年度を下回る状況となった。前期・後期ともに，減少数が最も大きかったのは「東海」地方で，前年度に比べ前期 234 人減，後期 115 人減，合計 349 人減（前年度対比 76%）だった。次いで「首都圏」（前期 164 人減，後期 75 人減で合計 239 人減，前年度対比 61%），「関西」地方（前期 126 人減，後期 92 人減で合計 218 人減，前年度対比 54%）であった。つまり「東海」「首都圏」「関西」の 3 大都市圏からの出願数が大きく減少した。「北陸」地方では，前期 107 人減，後期 46 人減となったものの，合計は 153 人減で前年度対比 94%と留まり，3 大都市圏ほどの大きな減少数にはならなかった。

地方ごとだけではなく，都道府県ごとではどうだろうか。都道府県別での集計が図 2 である。47 都道府県のうち，2024(令和 6)年度の一般選抜の志願者数が多い上位 20 都道府県を左から並べ，2024(令和 6)年度と前年度入試の一般選抜の志願者数と，前年度対比率をグラフ化した。前年度対比の低い都道府県をみると，愛知県 71%，東京都 62%，埼玉県 56%，兵庫県 55%，大阪府 47%，京都府 47%等が目立つ。地方に位置する道県よりも，人口過密の大都市を有する都府県からの志願者数の低下率が著しい。

### 3.3 一般選抜の各学部の志願者動向

富山大学全体の志願者数でみると，大都市のある地域からの志願者数が昨年度に比べて大きく減少したが，富山大学の 9 学部全てで志願者が減少したのであろうか。学部ごとに，志願者のある都道府県の具合や，都道府県別の占有率は異なる。志願実績のある高校も一律ではない。学部別の志願者状況についてもまとめてみたものが表 2 である。各学部の状況について確認する。以下の説明における（ ）内は，志願者の前年度対比率を示す。学部の志願者数明細や関連するデータは，紙面の都合上掲出しかねるため割愛する。

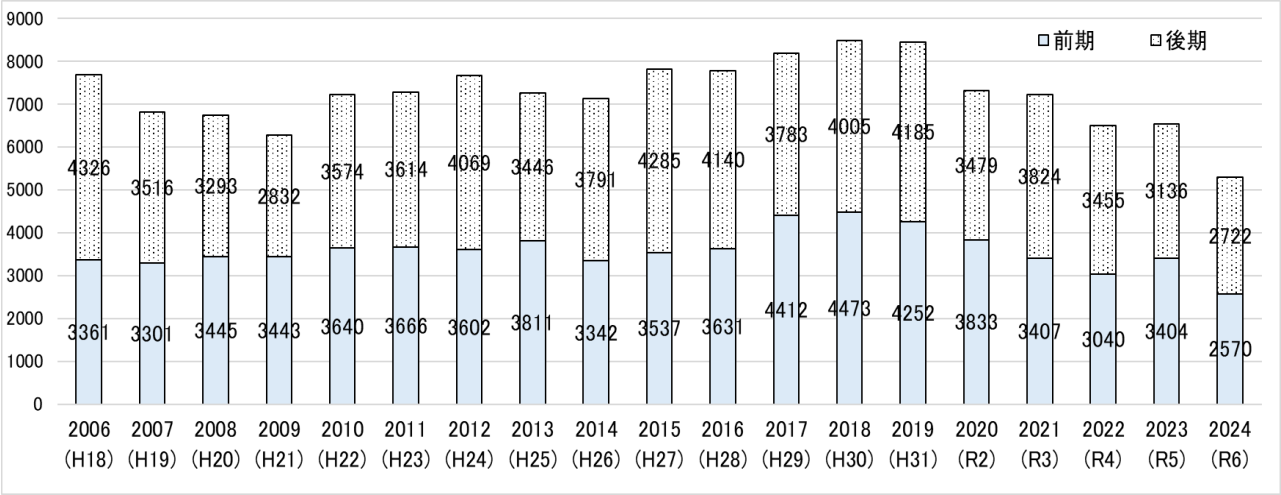


図１ 富山大学 一般（前期・後期）志願者数

表１ 富山大学 一般（前期・後期）地方別志願者数　2024(令和 6)年度と 2023(令和 5)年度 比較

| 一般 | 項目 | 北陸 | 東海 | 甲信越 | 首都圏 | 関西 | 北関東 | 東北 | 北海道 | 中四国 | 九州 | 他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 前期 | 2024(R6)志願者数 | 1083 | 553 | 347 | 180 | 129 | 96 | 68 | 54 | 26 | 22 | 12 | 2570 |
| | 2023(R5)志願者数 | 1190 | 787 | 434 | 344 | 255 | 128 | 92 | 57 | 56 | 39 | 22 | 3404 |
| | 志願者増減数 2024(R6)-2023(R5) | −107 | −234 | −87 | −164 | −126 | −32 | −24 | −3 | −30 | −17 | −10 | −834 |
| | 志願者前年度比率 2024(R6)/2023(R5) | 91% | 70% | 80% | 52% | 51% | 75% | 74% | 95% | 46% | 56% | 55% | 75% |
| 後期 | 2024(R6)志願者数 | 1204 | 567 | 348 | 188 | 126 | 99 | 69 | 44 | 33 | 31 | 13 | 2722 |
| | 2023(R5)志願者数 | 1250 | 682 | 402 | 263 | 218 | 100 | 67 | 41 | 59 | 37 | 17 | 3136 |
| | 志願者増減数 2024(R6)-2023(R5) | −46 | −115 | −54 | −75 | −92 | −1 | 2 | 3 | −26 | −6 | −4 | −414 |
| | 志願者前年度比率 2024(R6)/2023(R5) | 96% | 83% | 87% | 71% | 58% | 99% | 103% | 107% | 56% | 84% | 76% | 87% |
| 合計 | 2024(R6)志願者数 | 2287 | 1120 | 695 | 368 | 255 | 195 | 137 | 98 | 59 | 53 | 25 | 5292 |
| | 2023(R5)志願者数 | 2440 | 1469 | 836 | 607 | 473 | 228 | 159 | 98 | 115 | 76 | 39 | 6540 |
| | 志願者増減数 2024(R6)-2023(R5) | −153 | −349 | −141 | −239 | −218 | −33 | −22 | 0 | −56 | −23 | −14 | −1248 |
| | 志願者前年度比率 2024(R6)/2023(R5) | 94% | 76% | 83% | 61% | 54% | 86% | 86% | 100% | 51% | 70% | 64% | 81% |

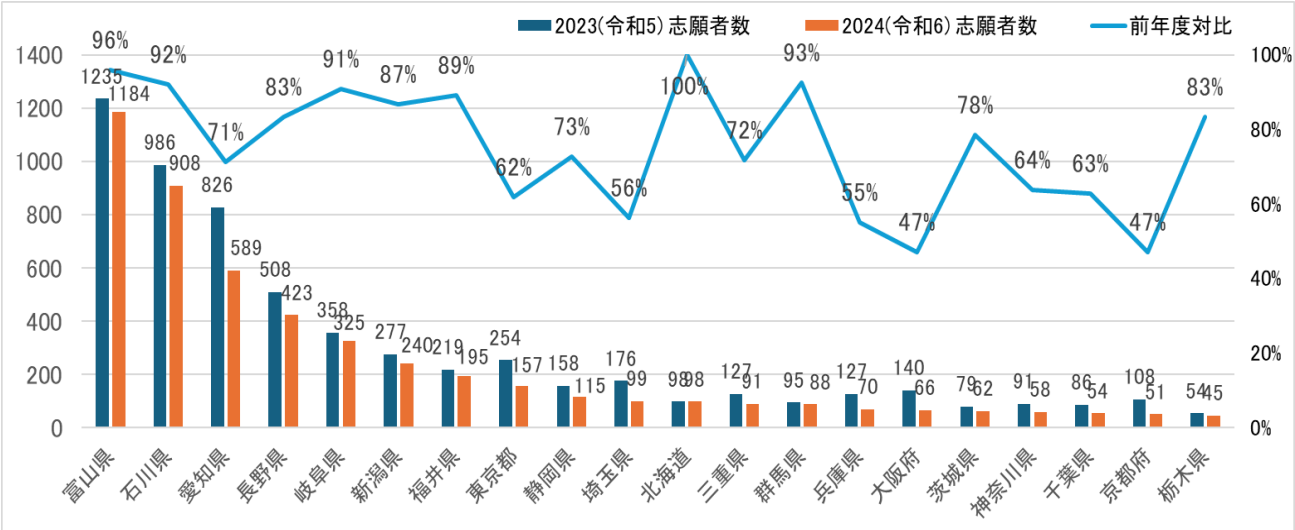


図２ 富山大学 一般志願者数　2024(令和 6)年度と 2023(令和 5)年度 比較

表 2 富山大学 一般（前期・後期）学部別志願者数　2024(令和 6)年度と 2023(令和 5)年度 比較

| 一般 | 項目 | 人文学部 | 教育学部 | 経済学部 | 理学部 | 医学部 | 薬学部 | 工学部 | 芸術文化学部 | 都市デザイン学部 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 前期 | 2024(R6)志願者数 | 349 | 95 | 523 | 194 | 332 | 211 | 505 | 120 | 241 | 2570 |
| | 2023(R5)志願者数 | 439 | 178 | 519 | 413 | 493 | 313 | 681 | 137 | 231 | 3404 |
| | 志願者増減数 2024(R6)−2023(R5) | −90 | −83 | 4 | −219 | −161 | −102 | −176 | −17 | 10 | −834 |
| | 志願者前年度比率 2024(R6)/2023(R5) | 79% | 53% | 101% | 47% | 67% | 67% | 74% | 88% | 104% | 75% |
| 後期 | 2024(R6)志願者数 | 345 | 126 | 497 | 432 | 144 | 180 | 519 | 203 | 276 | 2722 |
| | 2023(R5)志願者数 | 378 | 247 | 365 | 531 | 99 | 167 | 632 | 216 | 502 | 3136 |
| | 志願者増減数 2024(R6)−2023(R5) | −33 | −121 | 132 | −99 | 45 | 13 | −113 | −13 | −226 | −414 |
| | 志願者前年度比率 2024(R6)/2023(R5) | 91% | 51% | 136% | 81% | 145% | 108% | 82% | 94% | 55% | 87% |
| 合計 | 2024(R6)志願者数 | 694 | 221 | 1020 | 626 | 476 | 391 | 1024 | 323 | 517 | 5292 |
| | 2023(R5)志願者数 | 817 | 425 | 884 | 944 | 592 | 480 | 1313 | 353 | 733 | 6540 |
| | 志願者増減数 2024(R6)−2023(R5) | −123 | −204 | 136 | −318 | −116 | −89 | −289 | −30 | −216 | −1248 |
| | 志願者前年度比率 2024(R6)/2023(R5) | 85% | 52% | 115% | 66% | 80% | 81% | 78% | 92% | 71% | 81% |

人文学部は，前期90人減（79％），後期33人減（91％）であった。富山県の志願者数は微増の一方，愛知県や長野県からの志願者数が減少した。例年志願のある中部地方からの出願控えで志願者数が減少した。

教育学部は，前期 83 人減（53％），後期 121 人減（51％）で，前期・後期ともに前年度に対して約半分の志願者数となった。全学の中では志願者数が前年度対比で最も減少した。教育学部は入学者に占める地元の富山県出身者の占有率が高い学部であり（4～5 割），減少の要因は富山県の志願者数の大幅減だった。他県からの志願者減もあったが，それ以上に地元富山県内の志願者減少が大きく影響した。

経済学部は，前期4人増（101％），後期132人増（136％）で，全学の中では唯一，一般選抜志願者が前年度よりも増加した。学部改組となり3学科から1学科へ大括り化し，入試制度上受験しやすくなったことが要因として考えられる。志願者が減少した県や高校はあるものの，前年度に志願実績のない新規志願校が一定数あり地震の影響は見えにくい結果となった。

理学部は，前期 219 人減（47％），後期は 99 人減（81％）で，全学で 2 番目に減少率が大きかった。経済学部同様，学部改組となり 5 学科から 1 学科へ大括り化したものの，入試制度は従来よりも複雑化し逆に受けにくくなったことが要因 [2)]で，志願者が大幅に減少した。理学部は元来，学内で最も志願実績校の数が多く，全国の広域から志願者を集める学部であるが，前年度に志願者がいたにも関わらず 2024(令和 6)年度に志願者 0 人となった高校が 200 校以上あり，広域遠方からの志願がストップした形となった。特に愛知県からの志願者の減少が最も大きく，3 大都市圏の都府県からの志願減が大きく響いた。

医学部は，前期 161 人減（67％），後期 45 人増（145％）で，前期と後期の動向が異なる。後期は看護学科のみである。看護学科は 2023(令和 5)年度入試において，第 2 次募集を行うほどに志願者減となった影響で，2024(令和 6)年度はその反動で前期・後期ともに志願者が集まった。教育学部同様，入学者に占める地元の富山県出身者の占有率が高いものの年度によって高低差があり（3～6 割），今回は富山県内出身者の出願が多かったことで，志願者減少とならず地震の影響が見られなかった。医学科は一般選抜で前期のみである。看護学科とは逆に，2023(令和 5)年度入試において 2 段階選抜となるほどに志願者が増加，その反動で 2024(令和 6)年度の志願者は減少に転じた。医学科も地元の富山県出身者が一定（3～4 割）を占める。その県内志願者の数に大きな増減はなかったものの，例年志願実績があるにも関わらず 2024(令和 6)年度は志願者 0 名の進学校が一定数あった。特に 3 大都市圏に位置する進学校からの志願減が目立ち，医学科の 2024(令和 6)年度志願者が減少した。

薬学部は，前期 102 人減（67％），後期 13 人増（108％）で，前期での減少が目立った。医学科と同様に，薬学科の前期志願者が 2023(令和 5)年度入試に増加，反動で 2024(令和 6)年度志願者は減少した。3 大都市圏の進学校からの出願が，医学科同様に 0 名となったところがあり影響した。

工学部は，前期 176 人減（74％），後期 113 人減（82％）で，前期・後期ともに大きく減少した。工学部は東海地方からの出願が多い学部であるが，その東海地方の高校からの志願者の減少が最も影響が大きかった。なお，工学部は前期において，共通テストと個別学力検査の配点ウェイトが異なる 2 つの枠組み

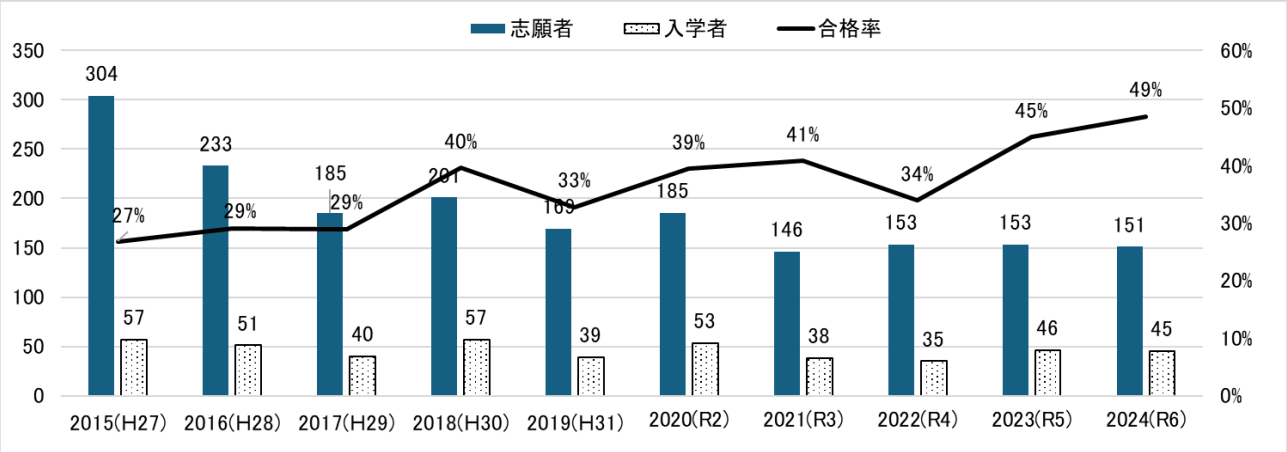


図 3 能登半島の高校から富山大学への志願者数と入学者数

を 2017(平成 29) 年度より設けてきた。導入当初は志願者が急増し高倍率を生み出してきたが，時間の経過とともに共通テスト重視型の倍率はほぼ 1 倍に，個別学力検査重視型の倍率は低下傾向となっている。地震の影響だけでなく，入試制度上の課題が影響している可能性もある。

芸術文化学部は，前期 17 人減（88%），後期 13 人減（94%）だった。微減したものの昨年度とほぼ同様の志願者状況を維持した。富山県内率は他学部に比べて低く全国から学生が集まる構造である。減少は富山県内の志願者減の影響が大きく，地震による出願控えの影響は見受けられなかった。

都市デザイン学部は，前期 10 人増（104%），後期 226 人減（55%）で，後期の減少が大きかった。前期は東京都からの志願者は減少する一方，愛知県からの志願者は減少せず増加となった。後期は愛知県からの志願者が大きく減少し大幅減となった。

以上のように 9 学部を見た場合，それぞれに事情があり状況が異なる。1 つの理由だけで志願者増減を語ることはできないものの，減少の大きかった理由として，3 大都市圏である東海・首都圏・関西，特にその中心都府県である，愛知県・東京都・大阪府からの減少が大きい学部ほど，影響が大きかったと言える。

### 3.4 能登地方出身者の富山大学への出願と入学

地震が発生した被災地，「能登半島」に位置する高校からの，富山大学への受験状況はどうだったのか。能登半島に位置する高校のうち過去 10 年間で富山大学に志願のあった高校群（対象 9 校）からの志願者数の合計と入学者数の合計ならびに合格率（合格者数の合計／受験者数の合計）が，図 3 である。

10 か年で，志願者数の合計は減少傾向であるが，入学者数の合計は減少傾向にあるものの一定の水準を維持していることがわかる。地震発生前の 2023(令和 5)年度の志願者 153 人で入学者 46 人，地震発生後の 2024(令和 6)年度は志願者 151 人で入学者 45 人だった。このことから地震発生前後で大きな減少はなかったことがわかる。高校別にみれば増減はあったものの，能登半島に位置する高校全体としては，富山大学への志願者数の合計も入学者数の合計も，能登半島地震の前後で大きな変動はなかった。ただし，今後の 2025(令和 7)年度以降で影響が出てくる可能性も考えられる。今後の推移も確認していく予定である。

## 4 入学者にみる能登半島地震の影響度

富山大学では，合格者に対し入学手続き書類に同封し「入学時アンケート」[3]への回答依頼を行っている。2024(令和 6) 年度のアンケートでは，進路意思決定プロセスに関する設問のひとつに，「能登半島地震」に関する設問を設けた。「2024(令和 6) 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震はあなたの大学受験に影響を与えましたか」という設問である。1,426 件の回答者中「かなり影響はあった」43 件（3%），「少し影響はあった」178 件（14%）であった。富山大学 2024(令和 6)年度入学者において能登半島地震は「221 人（回答者中 17%）に影響があった」という結果であった。その回答者の 4 割は石川県，3 割は富山県出身者であった。逆に「地震の影響はなかった」と 83%が回答したわけである。この数字を見ると「地震の影響があった者は 2 割未満で少数」と言えなくもないが，このアンケートは入学手続者に訊ねている。能登半島地震前までは出願を予定（検討）していたものの地震発生によって非出願となった者は，当然ながら含んでいない。非出願者への接触手段を持ち得ていないため，能登半島地震が志願予定者にどこま

で影響を与えたか，直接的には確かめることは難しい。志願者動向から推察する限りである。

なお「入学時アンケート」では受験プロセスとして「入学する学部学科を受験した理由」（複数選択可）の問いを設けている。この中で 2 つの選択肢「高校の先生による薦め」「保護者による意向や薦め」が，前年度よりも大きく減少した。「高校の先生による薦め」は 305 件から 229 件に，「保護者による意向や薦め」は 285 件から 245 件に減少した。「高校の先生」も「保護者」も被災地＝北陸というイメージが先行してしまい，「富山大学」を推す力が弱まったのかもしれない。

## 5 おわりに

並川ら(2013)は 2008(平成 20)年度の新潟大学における新潟県外出身の志願者の大幅減少について，2007(平成 19)年 7 月に発生した中越沖地震の影響を言及している。地震によって発生した被害とは異なる「間接的」な要因，すなわち県や大学に対する情報の伝わり方やイメージの形成に関する地震の影響を，指摘している。今回の 2024(令和 6)年度の富山大学における志願者の大幅減少は，同様に間接的な地震の影響が受験者の意思決定にマイナスに働いたのではないかと考える。能登半島地震による直接的な被害は富山大学にないにも関わらず，被災地に近いと認識（誤認），または連日の被災地映像によって形成された事実と異なるイメージ（風評）が不安となり，富山県外，特に人口の多い 3 大都市圏からの出願者に影響があったのではないだろうか。ただし，地震による影響だけではなく，学部改組に伴う入試制度変更，志願者数の隔年現象による増減，各学部の志願エリアの広さの違い等の影響も否めない。次年度以降の志願者動向を継続して注視し，地震の影響だったのか，少子化進行の中で志願者減少によるものなのか，他の要因があったのか等，検証していくことが必要であると考える。

### 注

1) 志願者の出身高校の「所在地」を地方ごとに集計した。区分は以下。「北海道」は北海道，「東北」は青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県の 6 県，「北関東」は茨城県・栃木県・群馬県の 3 県，「首都圏」は埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県の 1 都 3 県，「甲信越」は山梨県・長野県・新潟県の 3 県，「北陸」は富山県・石川県・福井県の 3 県，「東海」は岐阜県・静岡県・愛知県・三重県の 4 県，「関西」は滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県の 2 府 4 県，「中四国」は鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県の 9 県，「九州」は福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県の 8 県。
2) 理学部において，改組前は生物学科ならびに自然環境科学科の前期で，個別学力検査は理科 1 科目で受験できたが，改組後は 1 学科となったことで入試制度が変わることになった。改組後の前期「募集区分Ⅰ」では「数学」または「数学と理科 1 科目」が受験科目として必要，「募集区分Ⅱ」では「数学」または「理科 1 科目」で受験できるものの，英語外部検定試験の結果を共通テスト外国語（英語）に加点するしくみとなり複雑化した。また，改組前の自然環境科学科の後期では個別学力検査無しだったが，1 学科となり改組後は個別学力検査が必要となった。
3) 富山大学における「入学時アンケート」の調査は 2023(令和 5)年度入学予定者より実施し，2024(令和 6)年度は 2 回（年）目の実施を行った。Web による回答方式で，進路意思決定のプロセス，高校時代の活動履歴，大学での生活への期待や希望等に関する設問について回答を得ている。回答率は 2 回（年）とも約 8 割。

### 参考文献


旺文社教育情報センター(2024年1月25日).「【能登半島地震各大学対応一覧（私立大編）】」旺文社教育情報センター https://eic.obunsha.co.jp/file/exam_info/2024/0125.pdf (2024年4月21日).

旺文社教育情報センター(2024年2月13日).「【能登半島地震各大学対応一覧（国公立大編）】」旺文社教育情報センター https://eic.obunsha.co.jp/file/exam_info/2024/0213.pdf (2024年4月21日).

北日本新聞(2024).「宿泊キャンセル5000人」県内ホテル・旅館 能登半島地震で損失１億円 風評懸念，2024年1月6日朝刊

倉元直樹 (2012).「大学入試の危機管理：東日本大震災の経験から」『クオリティ・エデュケーション』4, 149-185.

並川努・佐藤喜一・濱口哲 (2013).「新潟大学における志願者・入学者の動向について」『大学入試研究ジャーナル』23, 95-101.

阪神・淡路大震災関西学院報告書編集委員会編集(1996).『激震：そのとき大学人は：阪神・淡路大震災関西学院報告書』. 関西学院

福島真司・齋籐祐輔 (2013).「東日本大震災が大学入試に与えた影響――地方国立大学の志願者数を巡って―」『大学入試研究ジャーナル』23, 157-164.

福島真司・齋藤祐輔 (2014).「東日本大震災と志願者数の推移――地方国立大学の事例から―」『大学入試研究ジャーナル』24, 187-194.